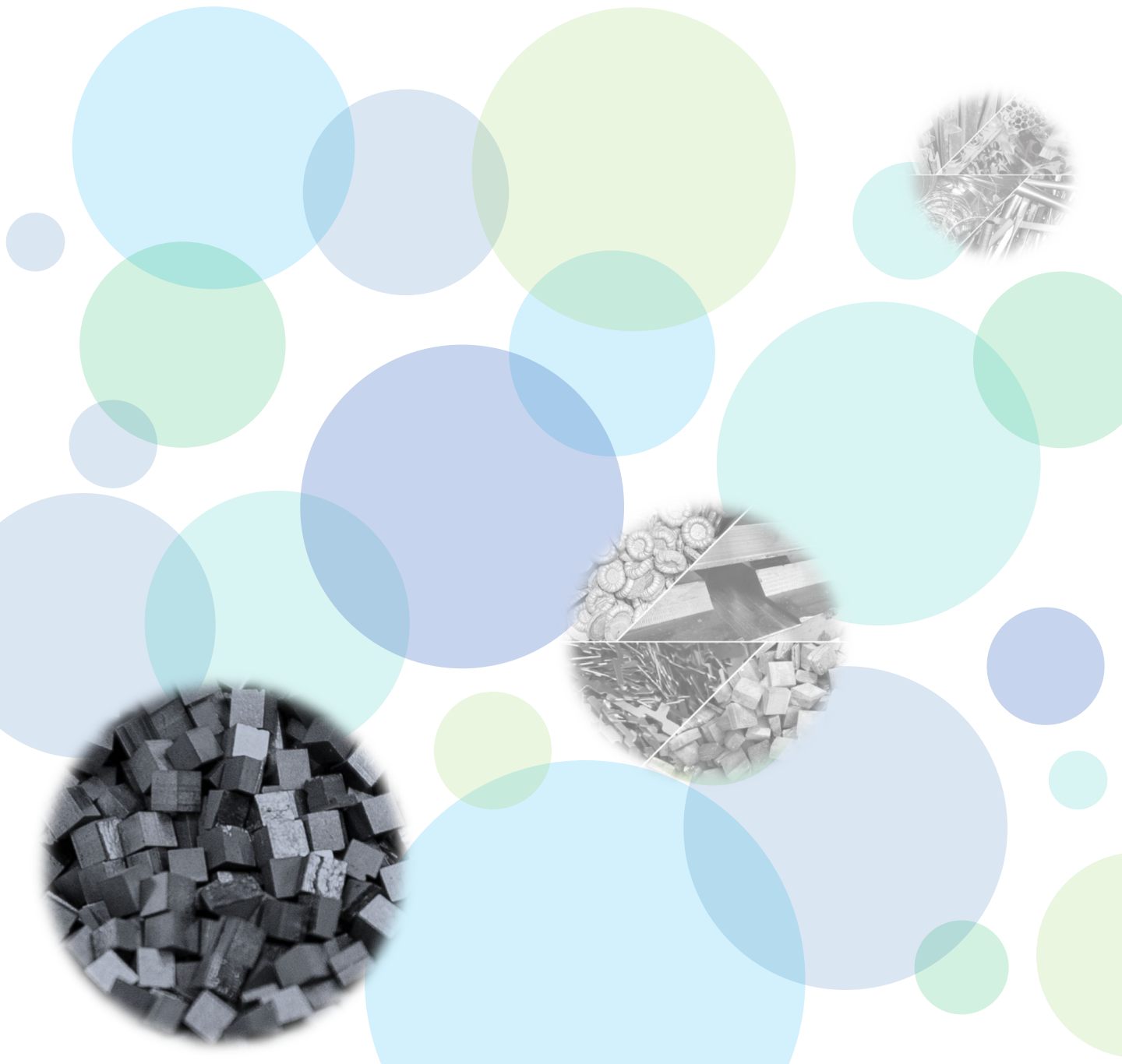


サステナビリティレポート

Sustainability Report 2025



Sustainability Report 2025

Quality Management

徹底した品質管理により
高品質なリサイクル原料を出荷

Specialize in Minor Metals

レアメタル・レアアースの専門商社として
リサイクルの未来を考える

Global Business

輸出入を通して
限られた資源を世界と共有

Environmentally conscious

脱炭素社会へ向け
環境に配慮した事業を

Community-based

地域社会に根ざし
愛される企業を目指して

目次

はじめに

サステナビリティレポート2025の作成にあたって
報告対象期間

P4

04 社会に関する取り組み

P17

社会に関する考え方

ワーク・ライフ・バランス

基本的な考え方

有給休暇の取得促進

時間外労働削減の取り組み

職場環境の改善

アートとビジネスの融合によるサステナブルな空間づくり

これまでの主な取り組み

従業員エンゲージメントの向上

これまでの主な取り組み

健康経営

「健康宣言」事業所の登録

健康経営優良法人認定の取得

人間ドック受診料の全額会社負担の開始

ウォーキングラリーの開催

その他の社員の健康維持・増進を目指す取り組み

人材育成

人材に関する考え方

資格取得のサポート

学びの機会の提供

SDGs勉強会・ワークショップの開催

業務マニュアルの整備

P5

01 富士マテリアルについて

業務内容

富士マテリアルのあゆみ

私たちが取り扱う「レアメタル」「レアアース」とは？

富士マテリアルが目指すサーキュラーエコノミー

「レアメタル」「レアアース」のリサイクルの流れ

企業情報

02 サステナビリティに関する取り組み

P9

サステナビリティに関する考え方

ガバナンスに関する考え方

SDGs達成に向けた取り組み

これまでのSDGs活動（富士興産の活動を含む）

バリューチェーンマッピング

当社のマテリアリティ

SDGsの達成に向けた主な目標

SDGs宣言

全社員が主役！「SDGsプロジェクト」の始動

03 環境に関する取り組み

P13

環境に関する考え方

希少資源のリサイクル

気候変動問題への対応

温室効果ガス排出量削減目標

再生可能エネルギーの利用

その他のCO₂排出量削減の取り組み

環境負荷の低減に向けた取り組み

大正倉庫の環境測定結果

当社のマテリアルバランス

05 地域との共生

P23

自主的な地域清掃活動

大阪市とのパートナーシップ

官民協業事業「大阪市くらしの便利帳」への協力

これまでの主な取り組み

【Appendix】

P25

社内報「FUJIMATE通信」

Sustainability Report 2025





はじめに

サステナビリティレポート2025の作成にあたって

富士マテリアル株式会社は、2024年10月1日、富士興産株式会社から原料リサイクル事業を分離独立しスタートしましたが、お取引のみなさまの支え、お力添えもあり、無事に1周年を迎えることができました。この場をお借りしまして、改めてみなさまに心から感謝を申し上げます。

2022年度よりSDGs活動を開始し、早3年がたちましたが、国内外において予期できぬ様々な出来事が発生し、変化の激しい時代に突入しています。企業に対して、今まで以上にサステナビリティ経営が求められるようになったと改めて感じております。

今まで積み重ねてきたものをより深化すべく、引き続き、自分たちの仕事がこのような社会に対してどのように貢献できるのか全社員が一丸となって学び実践してまいります。そしてこれらの活動、取り組みが社会に対してどのように貢献できているのか、環境負荷低減にどれだけ貢献できているのか、引き続き、実際にデータを数値化のうえ、評価、可視化を進めてまいります。

当社の事業の根幹であるリサイクル事業の関心、重要性が高くなっていく中、日々、学び・考え・実践し、カーボンニュートラルの実現に向けて取り組んでまいりますので、引き続き、ご愛顧の程、よろしくお願い申し上げます。

富士マテリアル株式会社 代表取締役社長 西尾 一



報告対象期間

2024年10月1日～2025年9月30日（1年間）

本レポートには分離独立前の富士興産の取り組みも一部含んでいます

01 富士マテリアルについて

業務内容

希少金属であるニッケルやコバルト、チタン、タングステンなどのレアメタル・レアアースを中心とする特殊金属スクラップのリサイクル・回収、選別検収から加工、販売を専門業務としています。

近年は国内に留まらず、海外の仕入先・販売先との業容拡大を進めており、グローバルリサイクルネットワークの構築にも努めています。



富士マテリアルのあゆみ

当社は2024年10月1日、レアメタル・レアアースの専門商社である「富士興産株式会社」から原料リサイクル事業を分離・独立して設立しました。

富士興産がこれまで取り組んできたサステナビリティ経営を継続するとともに、レアメタルリサイクラーとして循環型経済における新しい取り組みを考え、持続可能な社会の実現への貢献を目指しています。

2024

10月 富士マテリアル株式会社を設立

富士興産株式会社の原料リサイクル事業を分離・独立

12月 ネーミングライツの実施

大阪市のパートナー企業として、大阪市浪速区の立葉歩道橋にネーミングライツを実施

2025

4月 富士マテリアルとして初の新卒社員の入社

当社の将来を担う人財を確保するため、新卒採用を実施



私たちが扱う「レアメタル」「レアアース」とは？

どのようなところで使われている？

- 埋蔵量が非常に少ない希少な非鉄金属で、全部で31種類あります（ニッケル、コバルト、チタンなど）。
- レア＝貴重な資源のため、世界中で取り合いが発生しています。
- 私たちの豊かな暮らしを支える自動車やIT製品などの製造に必要不可欠な素材です。



電気自動車



飛行機



風力発電



電池



テレビ



スマートフォン

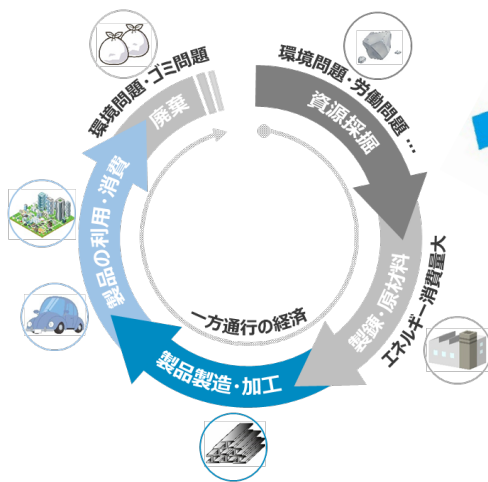


デジタルカメラ



パソコン

富士マテリアルが目指すサーキュラーエコノミー



一方通行の経済から

採掘→原料調達→生産→消費→廃棄という
一方通行の経済

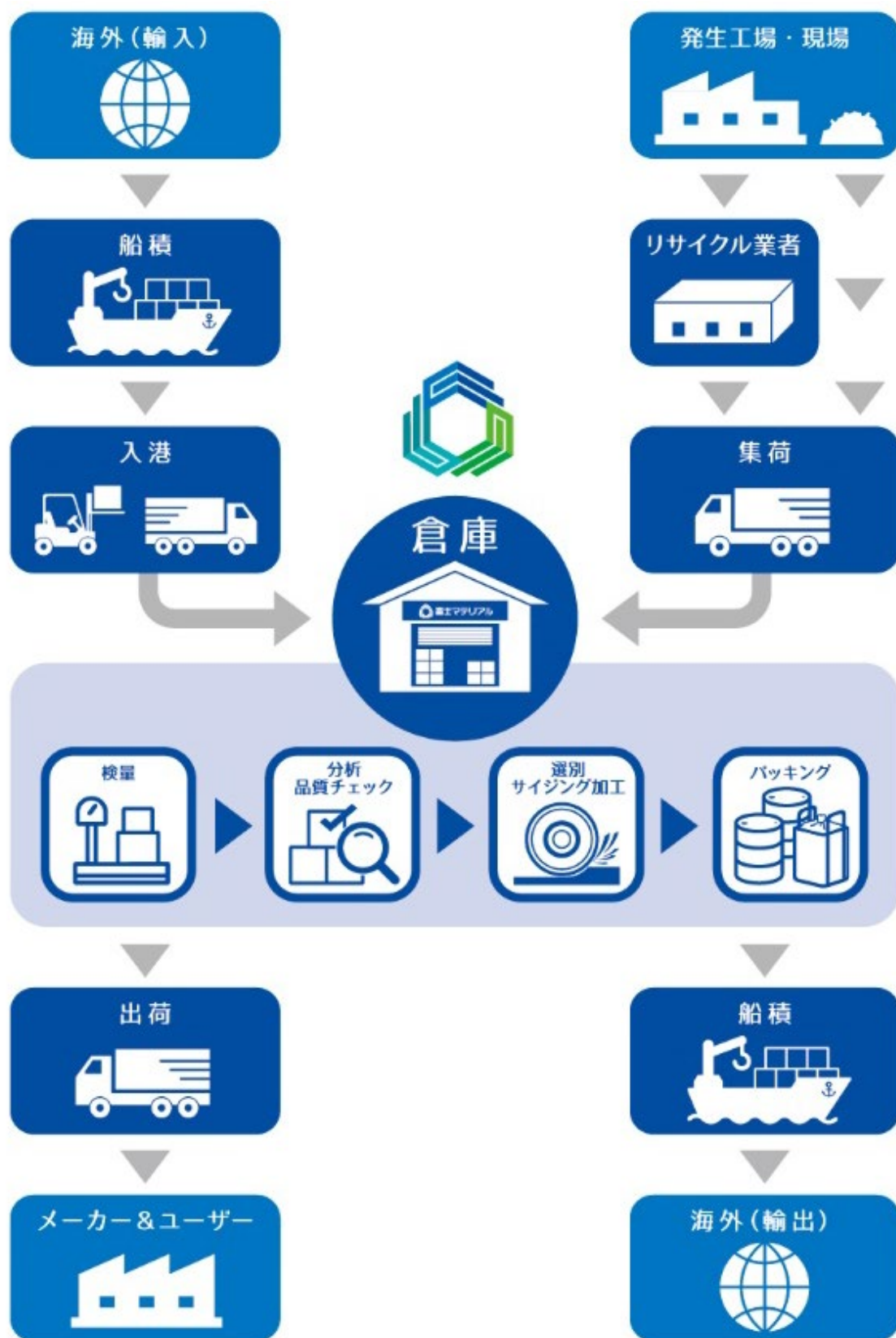
循環型経済へ

リサイクルすればまだ使用できるにもかかわらず、廃棄されてしまうモノは世の中にたくさんあります。富士マテリアルでは、これらをできるだけ多く回収し、半永久的に新たな資源として活用していく「橋渡し役」として、地球にやさしいサーキュラーエコノミーを目指しています。

またサーキュラーエコノミーは、採掘地域の労働問題や環境問題の抑制、エネルギー消費量の抑制にもつながり、温室効果ガス排出量の削減にも寄与します。



「レアメタル」「レアアース」のリサイクルの流れ



国内外問わず発生するレアメタル・レアアーススクラップのリサイクルフローの一端を担っています。当社倉庫では、集荷したレアメタル・レアアースの選別作業をはじめ、X線計や成分分析機を用いた分析の後、リサイクル原料として製品製造メーカーに向けて出荷しています。

企業情報

会社概要

商号	富士マテリアル株式会社
英文名	FUJIMATERIAL COMPANY, LTD.
本社	大阪府大阪市浪速区元町1丁目5番7号（ナンバプラザビル10階）
その他拠点	大正倉庫／大阪府大阪市大正区三軒家東3丁目7番14号 木津川倉庫／大阪府大阪市西成区北津守1丁目8番8号
設立年月日	2024年10月（令和6年10月）
資本金	50,000,000円
役員	代表取締役社長 西尾 一 取締役副社長 王 建強 常務取締役 小川 亮太
主な取引先	日本製鉄株式会社 ステンレス事業部（指定問屋） 日鉄物産株式会社 国内ステンレス・特殊鋼メーカー向け扱い商社 国内・海外の優良リサイクル業者

事業所の紹介

拠点名	本社
本社	大阪府大阪市浪速区元町1丁目5番7号 （ナンバプラザビル10階）
開設年月	2013年12月（平成25年12月）移転



拠点名	大正倉庫
住所	大阪府大阪市大正区三軒家東3丁目7番14号
開設年月	2007年10月（平成19年10月）
敷地面積	1,330㎡
建物面積	1,000㎡



拠点名	木津川倉庫
住所	大阪府大阪市西成区北津守1丁目8番8号
開設年月	2020年4月（令和2年4月）
構造	鉄骨造地上1階建
面積	585.46㎡



詳細情報はこちら



注）開設年月は富士興産の当初のものです

【URL】 <https://www.fuji-material.co.jp>



02 サステナビリティに関する取り組み

サステナビリティに関する考え方

レアメタルのリサイクル事業を展開する企業として、限りある地球資源の保護に努め、循環型社会の形成に貢献してまいります。

地域コミュニティの一員として積極的に地域活動に参画し、みなさまとともに持続可能な社会の実現を目指してまいります。

ガバナンスに関する考え方

「誠心誠意お客さまの要望に応えていく」という経営理念に基づき、お客さまや地域社会から信頼される企業として、最適な経営体制の構築に努めてまいります。

また当社では、適切なサステナビリティ経営を実施するために、外部のシンクタンクによる運営のチェックを受けています。

SDGs達成に向けた取り組み

これまでの主なSDGs活動（富士興産の活動を含む）

2022

2月 社内にSDGs推進プロジェクトチームを立ち上げ、本格的な取り組みを開始

4月 バリューチェーンマッピングを作成し、マテリアリティを特定

9月 2030年に向けたSDGs目標および目標達成に向けたロードマップを策定

10月 SDGs宣言を作成し、对外公表を実施

2023

10月 温室効果ガス排出量削減目標に関する国際認定 SBT認定を取得

2024

2月 SDGsに関する社内報第1号を発行

10月 サステナビリティレポートを初めて発行

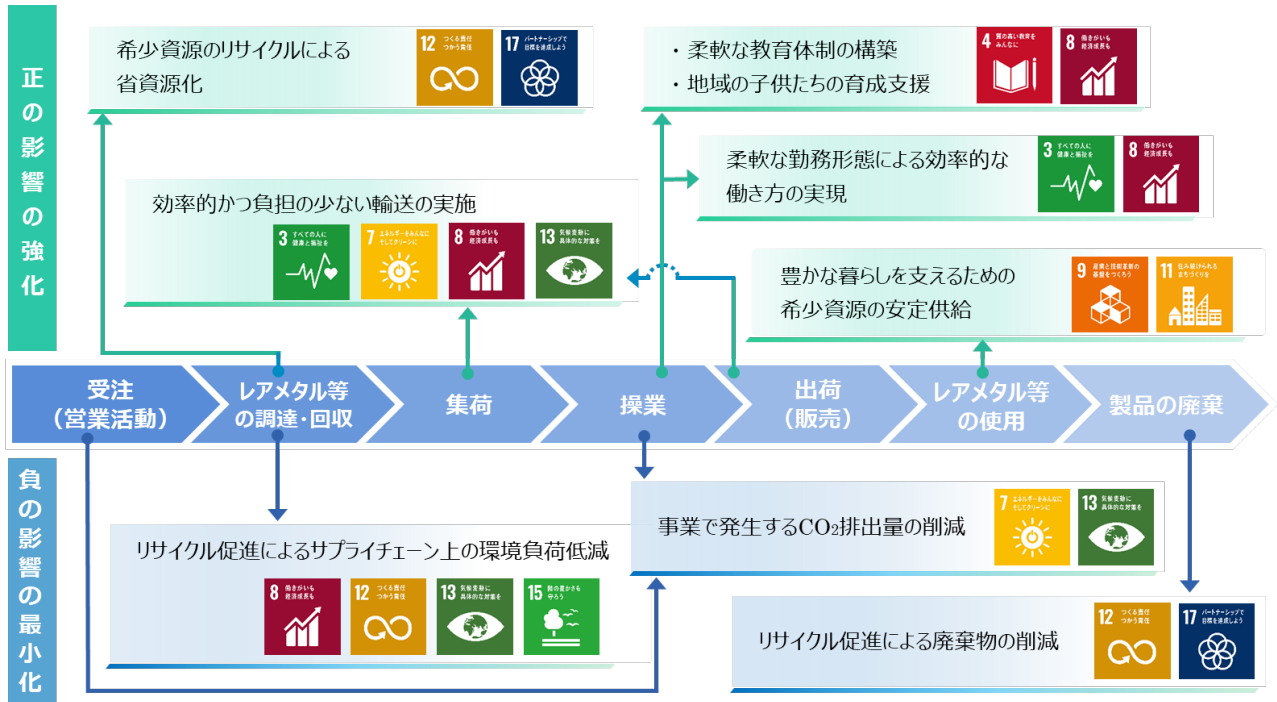
2025

12月 大阪市との連携による歩道橋ネーミングライツへの参画

3月 全社員参加のSDGsプロジェクト始動

バリューチェーンマッピング

当社の事業活動が、バリューチェーン全体を通じて環境や社会にどのような影響を及ぼすかを整理し、SDGsの達成に正の影響を及ぼす項目と負の影響を及ぼす項目を明確にしました。SDGsの達成を目指して、正の影響を強化するとともに、負の影響を最小化すべく事業活動に取り組んでまいります。



当社のマテリアリティ

当社にとって特に重要度の高い課題を自社事業への影響度とステークホルダーの関心度の2軸で検討を行い、4つのマテリアリティを特定しました。2030年のSDGs達成に向けて、全社員、お客さま、地域のみなさまとともに推進してまいります。

レアメタルのリサイクルを通じた持続可能な社会の実現

- ① 希少資源のリサイクルによる省資源化
- ② サプライチェーン上の環境負荷等の低減
- ③ 豊かな暮らしを支えるための資源の安定供給
- ④ リサイクル促進による廃棄物の削減

カーボンニュートラル社会実現への貢献

- ① CO₂排出量の削減、SBT認定の取得
- ② 効率的かつ負担の少ない輸送の実施

働きやすい職場づくり、社員と地域の子どもたちの成長支援

- ① 柔軟な教育体制構築と地域の子どもたちの育成支援
- ② 柔軟な勤務形態による効率的な働き方改革

地域社会との共生

地域の活性化に資する活動への積極的な参画

全社員・お客さま・地域のみなさまとともに

持続可能な社会の実現へ

SDGsの達成に向けた主な目標

特定したマテリアリティについて、2030年までに達成すべき指標と目標を設定し、社員一丸となって取り組んでいます。

主な指標（KPI）	2030年目標	2024年度実績	達成を目指すSDGs		
レアメタル販売量	20,000t／年	9,827.14t／年	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任	17 パートナリーシップで目標を達成しよう
鉄・非鉄金属の取引量	2,000t／年	564.49t／年			
Scope1,2排出量	85.8t-CO ₂	168.40t-CO ₂	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	13 気候変動に具体的な対策を	
SBT認定の取得	認定取得	認定取得済			
健康経営優良法人認定の取得	認定取得	申請中※	3 すべての人に健康と福祉を	8 働きがいも経済成長も	
年平均残業時間	1.5時間／年	0時間／年			

※分離独立前の富士興産で「健康経営優良法人2025」認定取得済み

SDGs宣言

SDGsについて賛同し、持続可能な社会の実現に向けて積極的に取り組んでいくことを社内外に宣言するため、2022年10月にSDGs宣言書を作成・公表しています（2024年10月に富士マテリアルで継承）。

1. レアメタルのリサイクルを通じた持続可能な社会の実現

当社では、私たちの豊かな暮らしを支える様々なものに使用されているレアメタルのリサイクル販売を行い、希少資源の有効活用に取り組んでいます。今後、取引先との関係をさらに強化し、レアメタルの安定供給を進めることで、希少資源の有効活用促進、採掘時の環境負荷低減や児童労働機会の削減に貢献し、持続可能な社会の実現を目指してまいります。



2. カーボンニュートラル社会実現への貢献

現在、太陽光発電や燃料電池自動車の導入など、CO₂排出量削減に向けた取り組みを積極的に進めています。今後は、削減目標を掲げることでさらにCO₂排出量の削減に注力し、世界が目指す「カーボンニュートラル社会」の実現に貢献してまいります。



3. 働きやすい職場づくり、社員と地域の子どもたちの成長支援

残業時間削減や有給休暇の取得促進など、働きやすい職場の醸成に注力すると共に、社員の育成や地域の子どもたちの育成にも努めています。今後は、今以上に社員全員が健康で高いモチベーションを維持しながら働き続けることができる環境を構築すると共に、引き続き社員教育や資格取得の支援に注力してまいります。



▶ 全社員が主役！ 「SDGsプロジェクト」の始動

2030年のSDGsの達成およびサステナビリティ経営をさらに推し進めるため、2025年3月に**全社員が参加する「SDGsプロジェクト」**をスタートしました。

本プロジェクトは、全社員がSDGsを「自分ごと」として考え、一丸となって事業活動を通じて社会課題の解決に貢献していくことを目的としています。

各社員がマテリアリティに取り組むために何をすべきかを考え、チーム単位で「取り組むべきこと」「取組目標」を設定し、チーム主導で目標達成を目指して活動しています。

SDGs勉強会の様子（2025年3月）



当社が本格的にSDGsの取り組みを開始してから約3年が経過しましたが、その間に新たに当社に入社した社員が増えてきたことを鑑み、SDGsの内容や取り組む意義を学び直すため、全社員を対象としたSDGs勉強会を開催しました。当日は簡単なクイズも織り交ぜながら、しっかりとSDGsについて学ぶことができました。

第2回ワークショップの様子（2025年6月）



第2回のワークショップでは、各自で事前に考えたSDGsに関するアイデアをチーム内で共有し、チームで今後取り組みたいテーマについてディスカッションを行いました。

ディスカッションは大いに盛り上がり、最終的に各チームが取り組むテーマを決定し、目標達成に向けて、それぞれのSDGs活動がスタートしました。

第3回ワークショップの様子（2025年9月）



第3回目は、各チームで取り組んでいるテーマについて、進捗状況や目標を達成するためにクリアしなければならない課題、これまでの活動における良かった点や反省点など、チーム活動の成果について発表を行いました。

社員一人一人がSDGsを「自分ごと」として捉え、目標に向かって着実に進んでいることを確認することができました。

03 環境に関する取り組み ～ Environment ～

環境に関する考え方

循環型社会の一翼を担う企業である自覚をもち、事業活動の継続的発展を通じて、組織全体で真摯に環境負荷軽減に取り組んでまいります。

希少資源のリサイクルだけでなく、気候変動問題の対応にも積極的に取り組み、地球環境の保全に貢献してまいります。

希少資源のリサイクル

「レアメタル」「レアアース」は、埋蔵量が非常に少なく希少価値の高い非鉄金属です。新たに採掘するためには大量のエネルギーを必要とするだけでなく、地域環境にも大きな影響を及ぼすと言われ、採掘現場での労働環境も問題視されています。

また、「レアメタル」「レアアース」は、特定国に偏在しているため、常に供給リスクに晒されています。当社では、リサイクルを通じて、採掘に頼らない希少資源の市場への提供に注力することで、様々な社会課題の解決に貢献し、持続可能な社会の実現を目指しています。

カーボンニュートラル社会の実現に欠かせないレアメタル等

システム・要素技術			必要となる主な鉱物資源
再生可能エネルギー部門	発電・蓄電池	風力発電	銅、アルミ、レアアース
		太陽光発電	インジウム、ガリウム、セレン、銅
		地熱発電	チタン
		大容量蓄電池	バナジウム、リチウム、コバルト、ニッケル、マンガン、銅
自動車部門	蓄電池・モーター等	リチウムイオン電池	リチウム、コバルト、ニッケル、マンガン、銅
		全固体電池	リチウム、ニッケル、マンガン、銅
		高性能磁石	レアアース
		燃料電池（電極、触媒）	プラチナ、ニッケル、レアアース
		水素タンク	チタン、ニオブ、亜鉛、マグネシウム、バナジウム

【出所】経済産業省 資源エネルギー庁「2050年カーボンニュートラル社会実現に向けた鉱物資源政策」令和3年2月15日

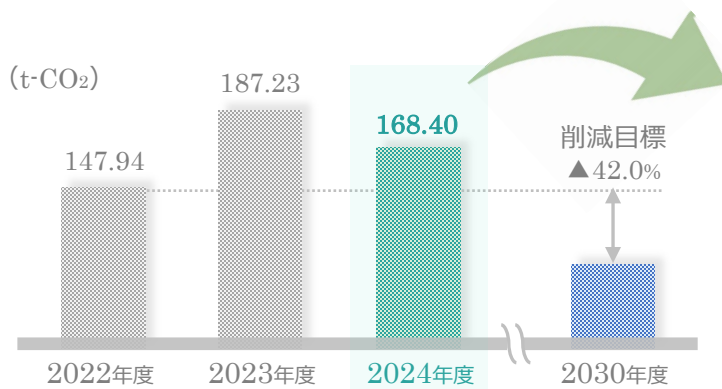
気候変動問題への対応

温室効果ガス排出量削減目標 SBT認定取得済み

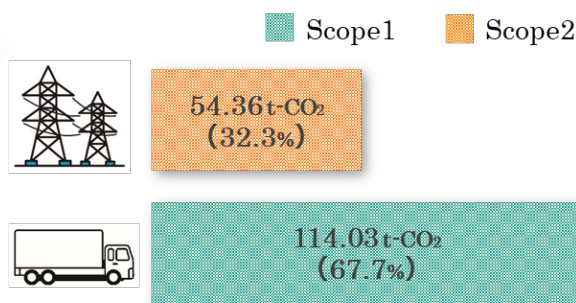
世界共通の課題である「気候変動問題」に取り組むため、事業活動の過程で発生する温室効果ガス（GHG）排出量の削減目標を設定し、2023年10月にGHG排出量削減目標の国際認定である**SBT認定**を取得しています。2025年1月の米国のパリ協定の正式脱退表明に伴い、「気候変動問題」に対する世界的な推進の減速が危惧される中、当社は変わらずカーボンニュートラル社会の実現を目指して、脱炭素経営を推進してまいります。

削減対象	基準年	削減目標	削減目標
Scope1 Scope2	2022年	2030年	▲42.0%

※Scope1・・・事業者自らによる温室効果ガスの直接排出
Scope2・・・他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出



GHG排出量推移



総排出量 168.40 t-CO₂

2024年度のGHG排出量内訳

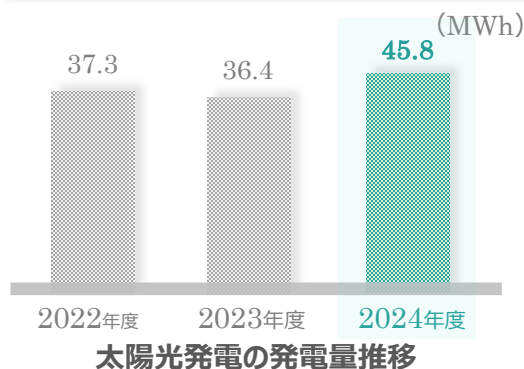
再生可能エネルギーの利用

再生可能エネルギーを自社で創出

カーボンニュートラル社会の実現に向けて、2022年1月に大正倉庫の屋根に太陽光パネルを設置し、再生可能エネルギーの発電を開始しています。

発電した電気は、すべて大正倉庫で使用する電気に充当し、同倉庫における排出量削減に取り組んでいます。発電開始以来、**50t-CO₂相当**の削減効果を得ることができています（2025年9月末時点）。

※大正倉庫リニューアル工事のため、2023年6,7月の配電量の測定できず



太陽光発電の発電量推移

その他のCO2排出量削減の取り組み

再生可能エネルギーの導入以外にも、事業活動で発生するCO2排出量に削減に継続的に取り組んでいます。

その他の削減活動一覧

活動項目	取組内容
燃料電池自動車	社用車として、走行時にCO2を排出しない燃料電池車を利用
バッテリー式フォークリフト	使用時にCO2を排出しないフォークリフトを利用
水素ガス切断機	金属の切断作業にCO2を排出しない水素燃料式の切断機を利用
再エネ発電管理ソフトの利用	太陽光パネルの発電量を可視化することで、発電量やCO2排出量削減効果をモニタリング

環境負荷の低減に向けた取り組み

当社では、事業活動が環境に影響を与える原因を認識し、周辺地域や職場環境に配慮を行うよう努めています。そこで、活動量が最も多い大正倉庫で発生する騒音・振動・粉塵などを自主的に測定を行いました。

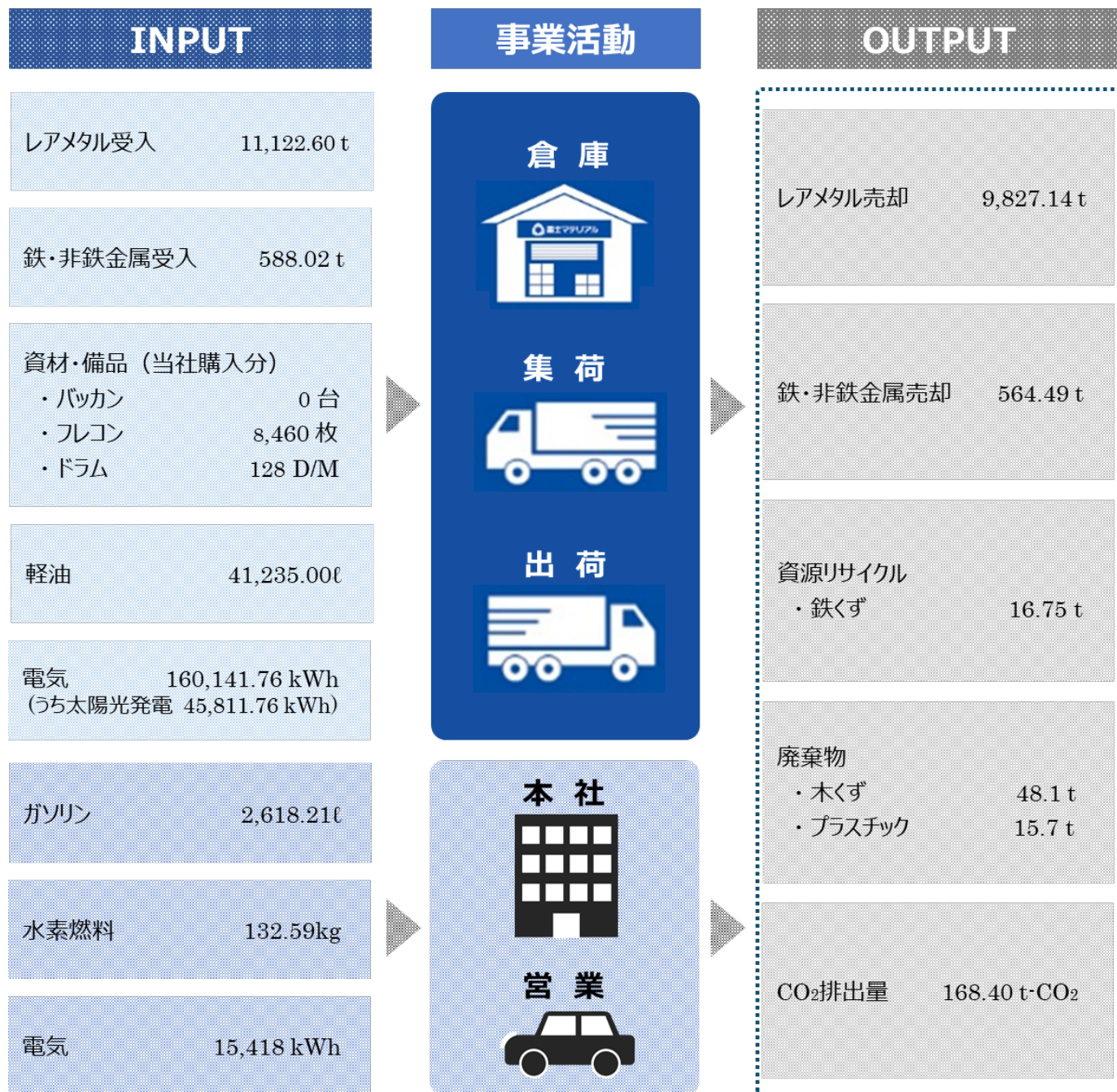
今後も定期的な調査によりチェック及び改善に努め、環境への取り組みと社員の安全・健康へ配慮する努力を続けてまいります。

大正倉庫の環境測定結果（測定日 2024年7月16日）

測定項目	測定地点	測定結果	適否
騒音レベル	大正倉庫 敷地境界線東側	73dB	△
振動レベル	大正倉庫 敷地境界線東側	76dB	△
場内の騒音	大正倉庫 北ヤード・南ヤード	43dB	○
場内の粉じん	大正倉庫 北ヤード	第Ⅱ管理区分	△ (要改善)
溶接ヒューム	大正倉庫 北ヤード	0.021～0.025mg/m ³ (マンガン濃度)	—

当社のマテリアルバランス

当社の事業活動における環境負荷を把握するとともに、これらの削減に取り組んでいます。



04 社会に関する取り組み ～ Social ～

社会に関する考え方

自社の存在意義を地域を含めた社会の一員であると認識し、社内で働く人のワーク・ライフ・バランスの最適化に尽力するだけでなく、地域子ども達に成長・学びの機会を創出し、支援いたします。

ワーク・ライフ・バランス

基本的な考え方

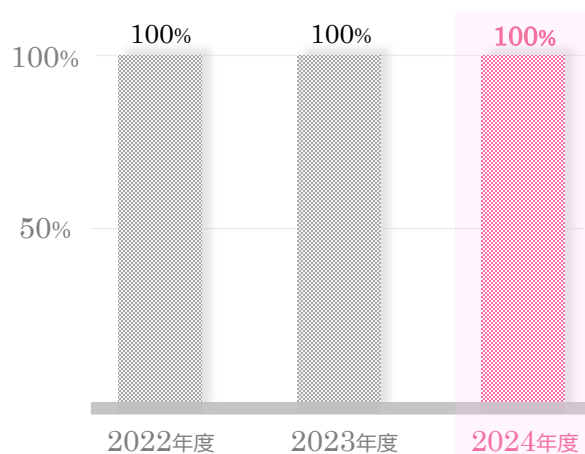
創業以来、当社では「社員教育による少数精鋭な会社」という基本方針を掲げています。これは社員の成長が会社の成長との考えで、一人ひとりの個性とスキルを大事に育てていくとしたものです。

社員をひとくくりで見るのではなく、個人として向き合い、仕事だけではなく、各々の生活スタイルを尊重し、社員自らが働き甲斐のある会社としてロイヤリティを高めていくことが、企業利益につながると信じております。そのためには、社員ファーストの視点でサポートを行い、仕事もプライベートも充実した環境にすることが肝要と心がけ、これからもアイデアを出しながら取り組んでいきます。

有給休暇の取得促進

当社では、働き方改革の推進に加えて、当社指定の「休業日（有給休暇取得奨励日）」を設けて連続休暇となるように工夫したり、上司から部下へ有給休暇を取得するよう積極的な働きかけを行うなど、「有給休暇取得率100%達成」を目指して全社あげて尽力しています。

2023年度に続き、2024年度についても**取得率100%を達成**しました。引き続き取得率100%を維持してまいります。



有給休暇取得率の推移

年間休業日の状況

	2023年度	2024年度
土・日・祝日	118日	120日
自社休日指定日	8日	8日
有給休暇取得奨励日	3日	4日
年間休業日合計	129日	132日

当社では完全週休2日制を実施するとともに、創立記念日など当社が指定する休業日、全社員が揃って有給休暇を取得する「有給休暇取得奨励日」を設け、2024年度は年間132日の休業日を実現しました。

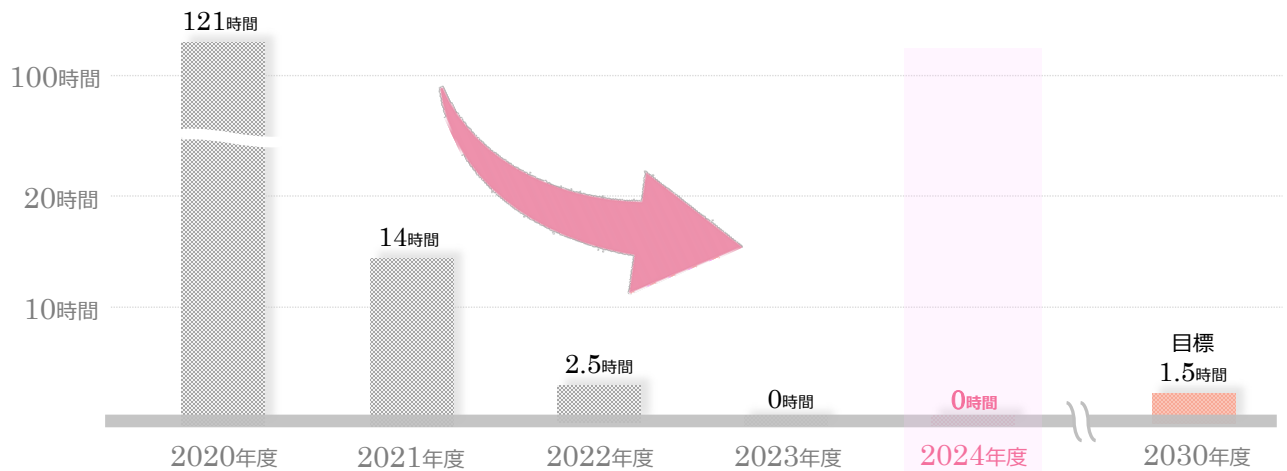
引き続き、社員のワーク・ライフ・バランスの実現に努めてまいります。

時間外労働削減の取り組み

当社では常に創意工夫しながら業務の効率化に努め、時間外労働の削減に取り組んでいます。

【主な取り組み】

- 多様な商材をIT管理にすることで、棚卸・在庫管理の効率化を実現
- 働き方に柔軟性をもたせることで、幅広い時間帯でお客様の要望にお応えしつつ、時間外労働の削減も実現



年間平均残業時間の推移

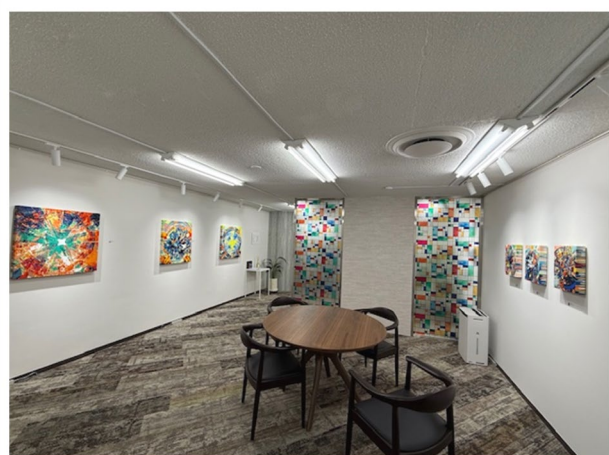
職場環境の改善

当社では、社員が健康で安心して働くことができるように、職場環境の継続的な改善に積極的に取り組んでいます。

▶ アートとビジネスの融合によるサステナブルな空間づくり

2025年9月、当社の前身会社である富士興産が同一ビル内に新事務所を開設しました。富士興産と当社は別法人ですが、業務効率化および快適な職場環境の整備に向け、相互に協力し合う関係を構築しています。

富士興産では、現代アート絵画を中心に現在活躍するアーティストの発掘と紹介を通じた支援を目的として、この新事務所内に小規模ギャラリーを開設し、作品の展示を始めています。



また、将来的には当社事業と親和性の高い「リサイクル」をテーマとしたアート企画も検討しています。

これらの取り組みは、当社事業とアートの融合を目指すものであり、サステナビリティの観点からも**新たな価値創出**の可能性を秘めています。

なお、本ギャラリーは当社にも開放いただいております。今後は特別な商談スペースとして有効活用していく予定です。

▶ これまでの主な取り組み

当社では、前身の富士興産時代より、全社員が快適な職場環境で業務が行えるように、継続的な設備投資を行うことで、社員の声に応えています。

実施項目	取組内容
本社事務所のリニューアル	明るく和やかな雰囲気を出せる職場環境を目指してリニューアルを実施。「小さな公園」をイメージしたオフィスへ
大正倉庫のリニューアル	更衣室や喫煙ルームの設置、社員がくつろげるリフレッシュスペースを設けるなど、快適な職場環境づくりを実施
大型空調設備の導入	寒さ対策・熱中症対策および社員の働きやすい職場環境を維持するために、大正倉庫に大型空調設備を導入

従業員エンゲージメントの向上

当社では、従業員エンゲージメントを高めることで、社員と会社の一体感を醸成し、一人一人が高いモチベーションで仕事に取り組むことができるように努めています。

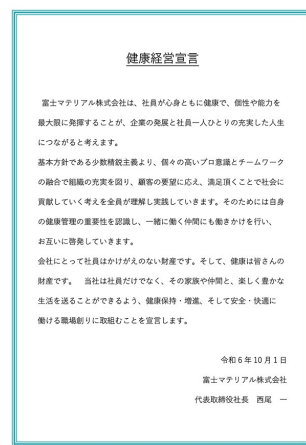
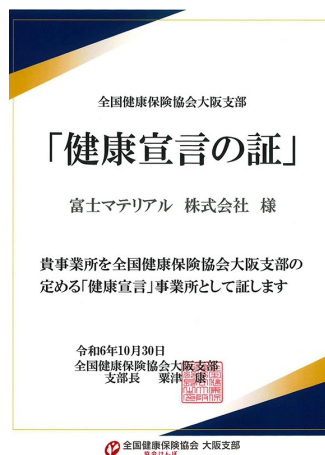
これまでの主な取り組み

実施項目	取組内容
SDGs社内報の発行	全社員のSDGsに対する意識を高め、全社員が「自分ごと」としてSDGsに取り組めるように、SDGsに関する社内報を定期的に発行
社内サークル活動のサポート	会社と社員が共に成長し、企業文化を育てることを目的として「サークル活動規程」を制定し、活動費の一部をサポート
社員の誕生日への対応	社員の誕生日には地元の人気洋菓子店の商品から本人が欲しいものを選んでもらい、会社からプレゼント

健康経営

「健康宣言」事業所の登録

前身会社の富士興産では、社員の健康管理の重要性を認識し、積極的に健康増進活動を推進してまいりましたが、その取り組みを継承し、富士マテリアルとしても、2024年10月に全国健康保険協会大阪支部に健康宣言を行い、「健康宣言」事業所として認定されました。



健康経営優良法人認定の取得

前身会社の富士興産では、2025年3月に3年連続となる「健康経営優良法人（中小企業法人部門）」認定を取得しました。

「社員の健康が、会社の未来を創る」という富士興産の考えやこれまでの取り組みを継承し、富士マテリアルにおいても、2026年度の認定取得に向けて申請対応中です。

働く社員の心の健康と体の健康の維持と向上、そして、会社生活を通して、より健康的な生活習慣定着のため、これからも社員の健康維持増進に資する様々な取り組みを行ってまいります。

人間ドック受診料の全額会社負担の開始

会社にとって最も大切な財産である社員の健康の維持・増進は、会社の持続的な成長には不可欠であることから、全社員を対象として、これまでの健康診断から人間ドック受診に変更し、受診料は全額会社が負担する制度に見直しました。従来より精度の高い健康管理を行うことで、会社だけではなく、全社員に健康維持・増進に関する自発的な行動変容を促しています。

ウォーキングラリーの開催

社員同士のコミュニケーション活性化と社員の健康維持促進を目的として、2025年5月から6月の2ヶ月間、ウォーキングラリーを社内イベントとして開催しました。チーム対抗戦とすることで大いに盛り上がり、最も歩数が多かったチームには賞品が付与されました。



第2回 ウォーキングラリー 順位表				
順位	前回順位	チーム	メンバー	平均歩数
1	2	B		10,135歩(+131)
2	1	D		10,022歩(+16)
3	3	A		9,888歩(+16)
4	4	C		9,194歩(▲130)

ウォーキングラリーをきっかけに、プライベートでも歩くことを意識する社員が増えており、健康に関する意識を高めることにつながっています。

その他の社員の健康維持・増進を目指す取り組み

社員の健康維持・増進のため、他にもさまざまなことに取り組んでおり、社員からも好評を得ています。

実施項目	取組内容
設置型社食サービス	栄養管理士が推奨する惣菜、サラダなどが豊富に揃った設置型社食サービスを導入。社員が利用しやすいように、購入費用の半額を会社が負担
健康アプリの導入	社員の健康維持増進を目的として、健康アプリを導入。アプリ導入を契機に、多くの社員が意欲的にウォーキングに取り組み、健康維持増進に寄与
スポーツジム利用費の補助	社員がプライベートで通うジムの費用の一部を会社が負担。本補助がきっかけでジムに通うようになった社員もあり、健康維持増進に寄与

人材育成

人材に関する考え方

当社で働く社員は「当社の人財である」として、多様性の受容、学びの機会支援、健康経営に努め、本人の成長及び豊かな人生実現に向けて、組織として最大限の貢献をいたします。

資格取得のサポート

「個人の能力向上」と「業務の生産性向上」を目的に、当社では組織的に社員の資格取得を支援しています。倉庫では個人の業務負荷に偏りが生じないよう、「作業の平準化」と「多能工化」を推進し、事務所では、学びのテーマに自由度を持たせ、社員本人の意志を尊重した資格取得をサポートしています。

各技能資格保有者数（2025年9月30日時点）

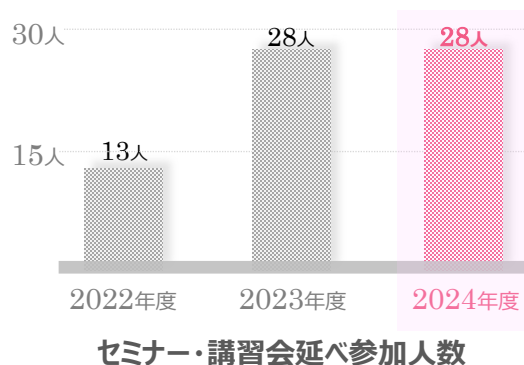
資格名	人数	資格名	人数
中型運転免許	12	ガス溶接技能講習	10
大型運転免許	5	アーク溶接特別教育	10
フォークリフト技能講習	14	床上操作式クレーン講習	11
玉掛技能講習	11	天井クレーン	1

(人)

学びの機会の提供

社員の継続的な自己啓発をサポートするため、外部セミナーや講習会への積極的な参加を奨励するとともに、費用を全額会社で負担しています。

また、営業、現場、総務など、所属部署にかかわらず、全社員が平等に学びの機会を得られるような環境を整備しています。



SDGs勉強会・ワークショップの開催

SDGsプロジェクト（P12参照）の一環として、全社員を対象としたSDGs勉強会や社員自らが会社のSDGs活動について考えるワークショップを開催しました。SDGsやサステナビリティ経営に関する理解を深め、一人一人が自発的にSDGs活動に取り組むことができるように、継続的に開催してまいります。



業務マニュアルの整備

当社では、これまで会社共通の業務マニュアルを制定していませんでしたが、2024年に実施した社員面談の中で、「業務マニュアルがあった方がよい」という声が複数ありました。一方で業務マニュアルがないことをプラスに捉える社員も複数いましたが、当社としては課題として認識し、優先度の高い作業について新たに業務マニュアルを制定しました。新しく富士マテリアルの仲間に加わる社員が増えてきたこともあり、新人教育の教材としても今後有効に活用していく予定です。

05 地域との共生 ～地域への貢献～

富士マテリアルは、地域社会に根ざして愛される企業を目指して、コミュニティの一員として主体的に社会に関わり、積極的な社会貢献活動を行うことを心がけています。

自主的な地域清掃活動

2025年9月、当社社員による会社周辺の清掃活動を行いました。「地域」にも「環境」にもやさしい企業を目指し、周辺の歩道や植え込みなどのゴミを回収しました。

清掃活動を通じて、改めて地域への感謝の気持ちや環境意識を高めることにつながりました。

地域コミュニティの一員として、今後も継続的な活動を行うことで地域に貢献してまいります。



本社周辺の清掃活動

大正倉庫の清掃活動

大阪市とのパートナーシップ

得られた収入を道路の維持管理等に活用することを目的とする大阪市の「歩道橋ネーミングライツ事業」は、当社の地域貢献への考えとマッチしていることから、2024年12月、浪速区にある立葉歩道橋ネーミングライツのパートナー企業として、大阪市と契約を締結しました。



官民協業事業「大阪市くらしの便利帳」への協力

大阪市が発行する、市民のくらしに役立つ情報をまとめた生活ガイドブック「大阪市くらしの便利帳」に広告を掲載しました。

大阪市くらしの便利帳は、市費ではなく民間事業者の広告収入により発行される官民協業事業です。また、様々なお役立ち情報だけではなく、災害発生時など、いざという時の連絡先や対応方法などが記載されていることから、当社の地域との共生に関する考え方がマッチしています。



これまでの主な取り組み

地域の将来を担う子どもたちの育成・教育支援を目的として、富士興産時代より様々な取り組みをしてまいりましたが、その考え方を継承し、引き続き地域の子どもたちに向けた活動を継続していく予定です。

実施項目	取組内容
地元教育機関への備品寄贈	「大阪エヴェッサ」のチャリティーパートナーとして、地元小学校へ連絡帳を寄贈、地元中学校へバスケットボールを寄贈
舞洲プロジェクトへの参画	公式パートナーとして参画。大阪市内の小学生を対象としたオリジナル副読本「舞洲SDGsハンドブック」の作成にも協賛



地元小学校の新1年生に「れんらくちょう」を寄贈

地元中学校にバスケットボールを寄贈

【Appendix】 社内報「FUJIMATE 通信」

当社では、社内の情報共有に加え、全社員がSDGsに関する知識や意識を高め、サステナビリティ経営を推進していく主役となることを目的として、定期的に社内報「FUJIMATE 通信」を発行しています。サステナビリティに関する取り組みのほか、社内のイベントや社員の休日の過ごし方など、幅広い情報を「FUJIMATE 通信」を通じて共有することで、社員のエンゲージメント向上にもつながっています。

「FUJIMATE 通信」を少しだけ紹介します！

Company Newspaper

2024.12月 VOL.2

新入社員のご紹介

業務部

▶ 自己紹介

YouTubeをよく見ます。小学生から大学卒業までバスケットボールをしていました。食べ物ではお寿司が好きです。

▶ ライフスタイルについて

スポーツをやめてから、運動不足なので、ストレッチ、トレーニングを始め健康に気を使っていきたいです。これといった趣味がまだないですが、ゆくゆくは趣味に時間を使って充実した時間を送りたいです。

▶ 入社のきっかけと意気込み

ワークバランスを大事にしたいと考え就活をしていました。皆さんとてもやさしくメリハリをつけて働いていて、とても働きやすいと感じています。未経験なので一から覚えることが多いですが、精一杯努めてまいります。

永年勤続優良従業員

公益社団法人 大阪府工業協会
24年度 優良従業員表彰受賞者

FUJIMATE 通信

2025.3月 VOL.5

社員主導によるSDGsプロジェクト第一回開催のまよう

3月14日(金)13:00より大正倉庫にて第一回ワークショップが開催されました。リソネ総合研究所様および様による講習会があり、SDGsの基本的な知識や富士マテリアル㈱が取り組むSDGsについて改めて確認し、全社員のSDGs推進に対する意識を向上させるための非常に有意義な時間となりました。まとめを一部公開いたします。

富士興産・富士マテリアルが取り組むSDGs
～これまでの主な取り組み～

取組難易度(高)	取組難易度(中)	取組難易度(低)
<ul style="list-style-type: none"> 健康経営優良法人認定の取得 S B T 認定の取得 有給休暇取得率100% 残業時間の削減 本社事務所のリニューアル 大正倉庫のリニューアル 社内サークル活動支援 サステナビリティレポートの発行 地元小・中学校への備品寄贈 燃料電池自動車の導入 バッテリー式フォークリフトの導入 水素ガス切断機の導入 業界他社への見学 教育支援(資格サポート) 	<ul style="list-style-type: none"> 環境調査(調査は外部委託) 公共施設へのネーミングライツ 舞洲プロジェクトへの参画 SDGs社内報の発刊 社内SDGクイズ大会の開催(高得点者への賞品授与) 会社から社員へ誕生日プレゼント ペーパーレスへの取組 	

SDGsプロジェクト『課題シート』の提出期限は5月30日(金)
厳守でよろしくお願いいたします

社員主導によるSDGsプロジェクト第二回開催のもよう

6月13日(金)13:00より大正倉庫にて第二回ワークショップが開催されました。前回のワークショップで出題された課題シートの内容を整理し、5人1組の5チームを編成しました。今回は各チームで話し合いを行い、それぞれが取り組みたいテーマを決定しました。

～チーム紹介～

金属名よりチーム名を決め、決定したテーマを発表しました！



チーム タンタル(Ta)

取り組み内容：楠林への参加



チーム ローレンシウム(Rh)

取り組み内容：蓄電池の導入



グループワークの様子



チーム ジルコニウム(Zr)

取り組み内容：
リサイクルの意義や重要性を
WebサイトやSNSを活用し、
地域・企業・学校に広げる



チーム カッパー(Cu)

取り組み内容：
メタルダストからものを作る



チーム ネオジウム(Nd)

取り組み内容：
地元小中学校へへの出前授業

事務局より 目標期限は11月末！各チーム、リーダー任せにせず全員参加で取り組み、チーム内で協議・情報共有を図りましょう！

夏の懇親会

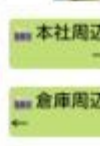
6月13日(金)あべのハルカス
梅雨の時期にもかかわらず、
ひとときを過ごすことができて
その後は近隣のカラオケ店へ



「地域にやさしく、環境にやさしく」会社周辺の清掃活動始動

9月19日(金)午前中、会社周辺の清掃活動を行いました。
約1時間にわたり、歩道や植え込みなどに落ちていたゴミを一つひとつ丁寧に回収。
天候にも恵まれ、爽やかな空気の中で気持ちよく取り組むことができました。

活動を通じて、地域への感謝の気持ちや環境への意識を改めて実感する機会となりました。
今後継続的に、こうした取り組みを通じて地域社会に貢献していきたいと思っております。



本社周辺

倉庫周辺

社員主導によるSDGsプロジェクト第三回開催のもよう

9月19日(金)14:00より大正倉庫にて第三回ワークショップが開催されました。各チームによる活動発表がプレゼン形式で行われました。

不慣れな内容にもかかわらず、どのチームも工夫を凝らした発表を行い、会場は終始活気に満ちていました。
参加者同士の刺激や学びも多く、大いに盛り上がりました。



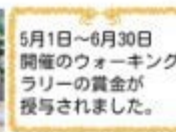
各チームの発表の様子

ワークショップ終了後は、りそな総研のお二人にもご参加いただき、
懇親会を兼ねた懇談会を開催しました。
和やかな雰囲気の中、交流を深めることができ、
楽しいひとときとなりました。



次回ウォーキングラリー開催のお知らせ

健康経営の取り組みの一環として、秋のウォーキングラリーを開催いたします。
開催期間は10月1日から11月30日までを予定しております。
今回もチーム戦形式での実施となりますが、まずは自己記録の更新を目指して取り組みましょう。
運動を通じて心身の健康を促進し、社内の交流も深められるこの機会に、ぜひご参加ください。



5月1日～6月30日
開催のウォーキング
ラリーの賞金が
授与されました。

循環型経済へ
レアメタルのリサイクル



富士マテリアル 株式
会社

◆本資料のお問い合わせ先

〒556-0016

大阪市浪速区元町1丁目5番7号（ナンバプラザビル10階）

TEL 06-6630-7066

FAX 06-6630-7067

URL <https://www.fuji-material.co.jp>